

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

アドミッションセンター

部局長名：

田原 誠

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 ・ 国際バカロレア入試合格者について、4月入学でギャップタームがある学生の入学前教育を希望する学生に入学前教育支援、および入学後の就学支援を行う。	合格者全員に入学前教育について案内し、受講の希望を調査したが希望者が一人もいなかったため実施していない。入学後、全員と定期的に面談を行い、就学上問題はないか聞き取りを行っている。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 ・ 全国大学入学者選抜研究連絡協議会(入研協)において研究発表を行う。 ・ アドミッションセンターセミナーにおいて研究成果を全学に還元する。 ・ 4月入学及び10月入学国際バカロレア入試(AO入試)の改善に取り組む。 ・ 国内外の日本語IBディプロマ取得者の生徒の実態を調査し、本学IB入試を志願する場合の入試方法について調査・検討する。 ・ IB certificate生徒の実態を調査する。 ・ フランスのバカロレア、スイスのマチュリテ、アメリカのSATなどの公式試験を日本の大学入学選抜資料としての可能性を研究する。	・ 平成27年5月27日から29日に東京電機大学において開催された第10回全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会において「岡山大学国際バカロレア入試の設計—現状と将来—」について発表を行った。 ・ 平成27年9月29日に開催し、高大接続と入試改革、国際バカロレア生の受入れ体制、本学を取巻く入試環境、入試成績と学業成績分析について情報を提供した。 ・ 国内外のIB校を訪問調査した結果、日本語 A履修者についてはHLとして日本語Aと英語Bを履修するため、理系の生徒でも理数からあと1科目しかHLをとらないことが分かった。ただちに、各学部学科の履修要件をそのように直してもらった。 ・ ブリュッセルや中国蘇州のIB校ではcertificateの日本人生徒が多いが、他の国地域では希望すればほとんどフルディプロマに入れることが分かった。 ・ グローバルディスカバリープログラムの入試WGにおいて検討を行っている。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ・ 全国大学入学者選抜研究連絡協議会(入研協)で発表を行う。 ・ 文部科学省大学教育加速プログラム入試改革(AP)27年度報告書	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 ・ 高大連携事業に積極的に参加する。	高大連携事業における講師派遣で31件、大学訪問31件を実施した。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ・ 高大連携の(大学訪問と高校訪問説明会)を合わせて40件程度実施する。	
④センター業務	自己評価
④-1 目標 ・ 国際バカロレア入試の広報を実施する。 ・ 教員対象および生徒対象の説明会を企画・実施する。 ・ 西日本中心に拠点校の高校訪問を実施する。 ・ 業者主催の説明会に積極的に参加する。 ・ 広報用印刷物の作成、入試広報の充実に努める。 ・ センター試験の教員対象説明会を実施する。 ・ 個別学力検査の説明会を実施する。 ・ 重点校の校内で説明会を実施する。	・ 国際バカロレア入試の広報のため国内IB校を21校、国外16カ国39校を訪問した。 ・ 教員対象説明会を12か所で、生徒対称の説明会を10回実施した。 ・ 西日本中心に全国104校を訪問した。 ・ 業者主催の説明会を全国で40件参加した。 ・ 国内高校生用説明会パワポ資料、IB生向け説明会資料を製作し配布した。 ・ センター試験実施担当者・監督者向け説明会を4回実施した。 ・ 個別学力試験実施担当者向け説明会を2月12日に実施した。 ・ 鳥取県立米子東高校、島根県立松江北高校、島根県立出雲高校、岡山学芸館高校、岡山県立倉敷青陵高校、愛媛県立西条高校と今治西高校で校内説明会を実施した。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ○ IB校訪問は海外10校程度、国内10校程度を実施する。 ○ 本学主催の説明会を20件程度実施する。 ○ 高校訪問を100校程度実施する。 ○ 業者主催の説明会に20件程度参加する。 ○ 重点高校校内での説明会を3校程度実施する。	
【総括記述欄】	
※管理・運営面についても検証した上で、今年度の達成状況を総括し、次年度に向けた改善点を記載してください。	
全ての数値目標を達成しているので、達成状況は概ね良好と言えるだろう。しかし、国際バカロレア入試による入学状況を見ると、その数は増加し続けているものの医学部医学科の定員3名は埋まったこともなく、いまだ入学者がいない学部・学科もある。今後の広報戦略をねるとともに、入学者数の増加を目指すしなければならない。	